あとがき

地域結集型共同研究事業は、青森県が長年一貫して政策課題として掲げてきた「産業構造の高度化」を実現するための研究開発プロジェクトとして開始された。

産業経済のグローバリゼーションが進展する中で、国際的な競争力を持つ最先端の新技術・新産業を地域において創出しようとする試みは、産業基盤とりわけ製造業が脆弱な青森県にとって、高付加価値のモノづくりを実現するという意味からも大きな魅力を持つものであった。

こうして地域結集型共同研究事業は、液晶関連産業の集積を目指す「クリスタルバレイ構想」の早期実現という使命を担うことになったが、研究テーマが国際間競争の極めて激しいＦＰＤ分野であることから、事業開始後１～２年間は、目標としているＦＰＤのスペックや達成状況はもとより、参加企業名すら公表しない形で静かに進められた。

その後、研究成果が試作品という具体的に目に見える「形」になったことで、情報管理には細心の注意を払いつつも、成果報告会や各種展示会、海外を含む数々の学会等において積極的な情報発信を行うようにした。

また、技術移転の受け皿となる「次世代ＦＰＤ先端技術研究会」も立ち上げた。研究会設立を構想した時点においては、地域企業が世界最先端の技術を承継しそれを活用した製品作りを自ら考え実践することができるのか、また、研究成果を承継・発展させ得る基本的な技術・技能を持っているかなどの懸念を持ったが、新技術エージェント活動を通じて、また関係機関との連携・情報交換を深めていく中で、青森にもＦＰＤに関するオンリーワン・コア技術があり、今後の事業化展開のシーズとなり得ることを確認することができた。

本事業終了後の研究開発体制については、中核機関のコア研究室を改組し、雇用研究員を継続雇用して「液晶先端技術研究センター」を設立することとした。このことにより、青森県としては、貴重な「人財」を散逸させることなく、研究拠点を整備することができた。

また、実用化研究開発については、「地域新生コンソーシアム研究開発事業」、「地域研究開発資源活用促進プログラム」の採択をいただき、空白期間を置くことなく開始することができた。

競争の激しい液晶関連分野ではあるが、今後この「液晶先端技術研究センター」を核として、これまでに確立した研究成果をもとに、地域のＣＯＥ構築を実現していきたいと考えている。

これまでご支援をいただいてきた（独）科学技術振興機構には、サテライト岩手を通じて引き続きのご支援をお願いするとともに、このプロジェクトに関係した多くの研究者、関係機関の方々に対し心より感謝申し上げたい。

財団法人２１あおもり産業総合支援センター